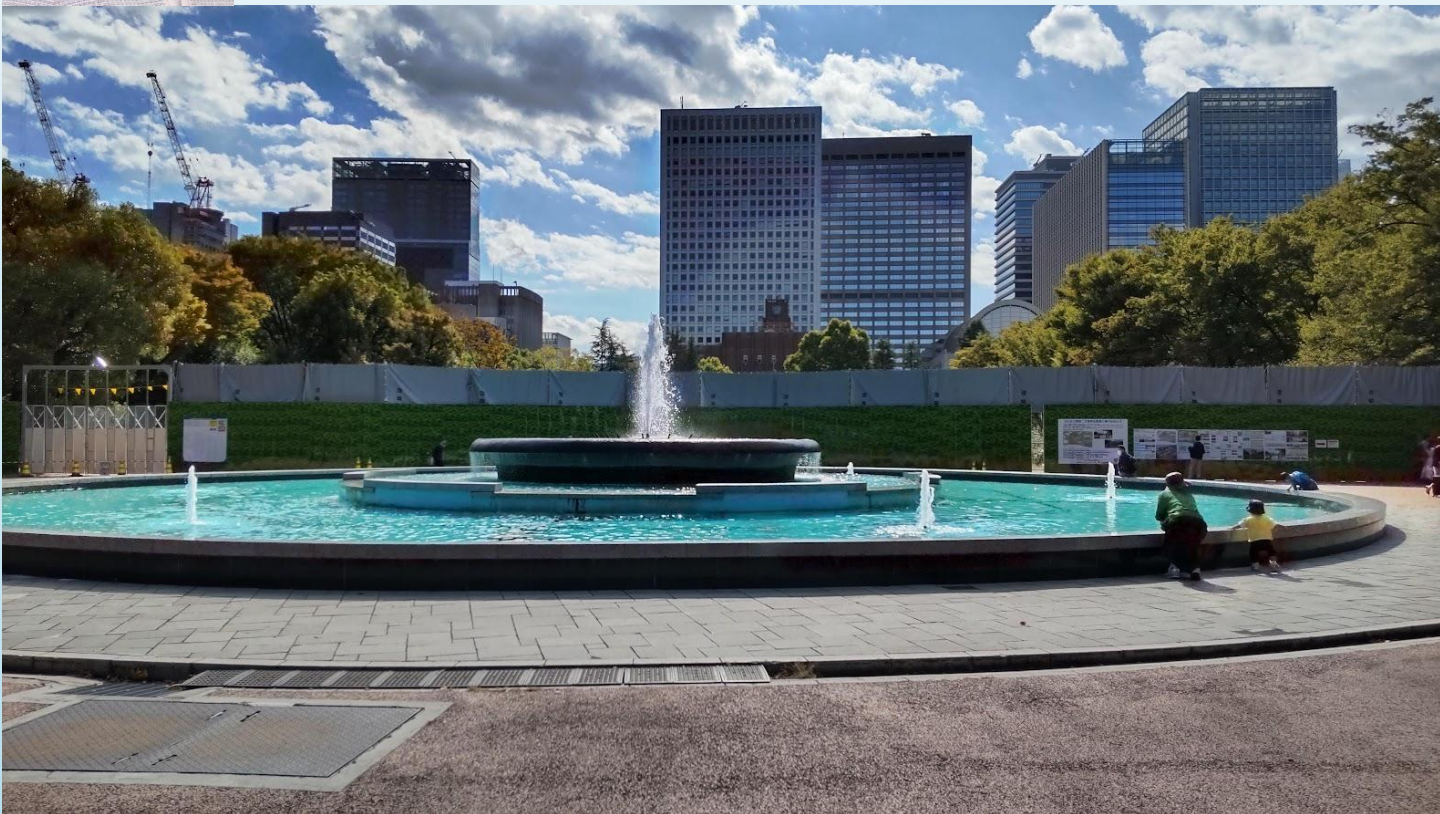




東京都議会議員 原純子（江戸川区）

日比谷公園再生整備計画 論戦集



目次

- 日比谷公園再整備はいったん中断し、利用者、住民との合意を得て再検討を
2023年9月13日（水）環境・建設委員会 － 1 p
- 超高層再開発に歪められた日比谷公園再整備は見直しを
2023年11月14日（火）環境・建設委員会 － 14 p

日本共産党東京都議会議員団

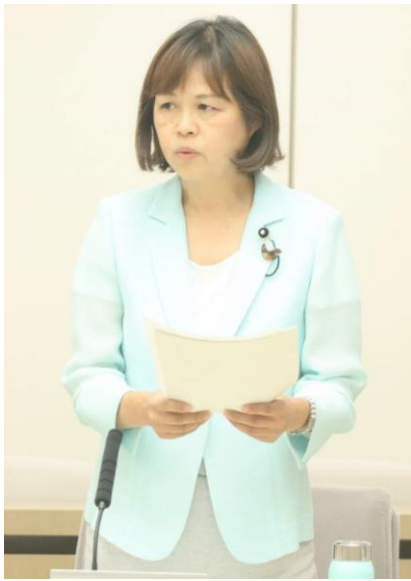
日比谷公園再整備はいったん中断し、利用者、住民との合意を得て再検討を

2023年9月13日（水）環境・建設委員会

○原委員

よろしくお願いします。日比谷公園再生整備の陳情について質問します。

陳情者の日比谷公園の歴史と文化をこよなく愛する会の陳情趣旨は、性急な再整備はせず、一旦中断した上で、時間をかけて利用者や住民との合意を得ながら、東京の歴史遺産を残すように再検討していただきたい



ということです。

2021年7月に策定の都立日比谷公園再生整備計画と、その具体化として、今年7月に発行されたバリアフリー日比谷公園プロジェクトにより、公園全体を九つのエリアに分け、段階的に再整備を行うスケジュールが明らかになりました。

2033年、令和15年まで10年かけての工事が行われることとなります。今年、開園120周年を迎える近代的洋風公園の先駆けとして、歴史的な建築物も多く存在する日比谷公園であり、野外音楽堂、日比谷公会堂などは人々の記憶に残るコンサートや市民集会、政治集会などが重ねられてきた文化や民主主義を育む地でもあります。

今回の再生整備計画は、野外音楽堂など歴史的な建築物が軒並みスクラップ・アンド・ビルドされ、芝生で敷き詰めた大規模な広場が中央の第二花壇のところに北西側にも設置される計画で、そのために花壇の植栽が消え、三笠山が削られます。そして、公園と周辺のまちとのアクセシビリティ向上のためということで、民間商業ビルとの間に2本のデッキをつなぐ計画です。まさに公園大改造ともいえるものです。

酷暑のオープンハウスは危険

先日、8月4日から6日の三日間、当公園内で、東京都によるオープンハウスが行われ、公園再整備計画の説明の場が設けられました。質問を予定していませんでしたが、ちょっとお聞きしたいんですが、根来部長さん、このオープンハウスに足を運ばれましたでしょうか。ちょっとお聞きしたいのですか。

○根来公園計画担当部長

オープンハウスには私も訪れました。

○原委員

ありがとうございます。

そうしたら、感覚的にも理解していただけると思うんですが、この期間は危険な暑さといわれる酷暑日で、外出は避けるよう警告が出ている期間でした。

都は、公園内第二花壇の側道のアスファルトの上に仮設テントを張り開催をします。私も行ってみましたが、あまりの暑さで5分といられないような状況でした。公園を散歩する人もほとんどいなかったです。来場者数は三日間で216人ということです。ふだんは一日6千人以上が来園する公園です。第二花壇整備工事の9月着工のために、無理にでも説明会をしましたといいたいのではないかと私は臆測をいたします。

職員の熱中症の危険を冒してまで強行す

る都のやり方に、非常に問題を感じました。

熱中症は死に至ることもあることぐらい知っておられると思いますが、本当に、場所とか日程とかを調整、変更することは可能だったのではないのでしょうか。

さらに、市民が来場者に対し独自にアンケートを取っていたのを、テントから外への通り道を遮断し、通れないようにしてしまったのは問題です。市民活動の自由は完全に保障されるべきだというふうに、ここで警告を発しておきたいと思います。

オープンハウスで取ったアンケートでの意見の抜粋を読ませていただきました。抜粋なので、意見の数は確定できませんが、今回の整備計画に対し、異議あり、または説明が不十分との意見が過半数に及んでいます。お聞きします。オープンハウスで出されたアンケート、これをどう受け止めておられるか、この意見をどう反映させるのかを伺います。

○根来公園計画担当部長

三日間で200名を超える方々にご来場いただきました。そのうち約八割に当たる方からアンケートにご協力を得ております。いただいたご意見を参考に、今後の整備を進めてまいります。

なお、アンケートの中では、例えば、公園の施設や園路の段差解消、スロープの設置などを行う、こうしたことに期待するといったようなご意見も91件ほどいただいております。

○原委員

そうですね。いろんな意見がありました。でも、やっぱり異議ある人の声、とても気になるので、ちょっと紹介します。

ただ静かに公園で過ごしたい利用者にとっては、今回のプロジェクトは改悪としか感じられません。みんながみんなイベントを望んでいるわけではなく、樹木や花を見てほっと一息つく、読書をする、そのための

公園であってほしい。歴史ある施設は保存してほしい。内幸町の再開発に合わせるような再整備は、歴史のある日比谷公園にはそぐわない。第二花壇を芝生にしないほしい。花のない公園は浮き浮きしないなどです。

もちろん、明るい、開けた公園に再生するという考え方には共感を覚えた、遊具を増やしてほしいなどの要望的なものもありました。

第二花壇のバラは園内で活用

実際利用している皆さんの気持ちと違う整備内容になっているような気がしました。そして、まだほとんどの都民や利用者が知らない現状の下、最初に整備を行うとされた第二花壇の整備工事が9月4日に突然始まり、囲いが造られ始めています。

花壇の四方のエリアに、今も花をつけているバラなどの貴重な植栽が撤去、処分さ



れると現地で聞いたメンバーが驚いて連絡をしてくれましたが、本当でしょうか。扱いを伺います。

○根来公園計画担当部長

第二花壇につきましては、来園者が芝生地に自由に入り、思い思いにくつろぐこと

のできる芝庭広場に整備をいたします。

第二花壇のバラは、園内で活用することとなっております。

○原委員

園内で活用するというのを答弁いただきました。そうすると、撤去、処分ということではなく、その場からは抜いてしまうけれども、園内で使うという、処分はしないということですよ。

現地ではっきりと撤去、処分というふうに通っていますので、これは多分、たくさん抗議が東京都に行ったと思います。扱いを変更したのだというふうに今受け止めたところです。このように聞く耳があることは、まあ、ほっといたします。

バラを育てるのは難しいということは誰もが知っています。樹木は保全しますとプロジェクトに記載しておりますが、植栽は別とか、そういうことではやっぱりなく、植

栽も同様に保全するという立場で取り組んでほしいというふうに思います。

それから、植栽の活用先について園内ということですが、私も担当の方に聞いてもまだはつきりしないと。少なくとも、移植先をはつきり決めて、公に示してから工事を始めるべきだというふうに申しておきます。

にれの木広場の樹木はなぜ

伐採されたのか

樹木の保全方針について、そういうことがありまして、信用できないっていうことがあります。それだけではないんです。公園のプロジェクトに樹木を保存しますと書かれています。既に日比谷公会堂前のにれの木広場の樹木 23 本が、2021年に伐採をされています。

何で勝手に抜いたのかということなんです。計画の方針と実際やっていることが矛盾



盾しているのではないのでしょうか。

○根来公園計画担当部長

日比谷公会堂耐震工事に先立つ準備工事に当たりまして、にれの木広場内の移植対

象木のうち、根腐れをしていた樹木を除き園内に移植いたしました。

○原委員

根腐れしていた樹木を除き園内に移植しましたとお答えいただきましたが、23本のうち園内に移植したのは一本と聞いております。（「24本のうち1本」と呼ぶ者あり）ごめんなさい。24本のうち1本を移植して23本を伐採したということでしょうか。ちよつともう一回お願いします。

○根来公園計画担当部長

先ほど申し上げましたとおり、にれの木広場内の移植対象木 24本のうち、根腐れしていた樹木を除き園内に移植いたしました。

○原委員

すみません、私が勘違いしていました。そういうことで、残置をしているうちは、まだ

生き延びられたはずの木ですよね。23本も根腐れということで、あつという間にアスファルトになってしまった。

本当にこの場に立つと、この木がここにあればもう少し生きられたはずだなというふうに思います。ここはデッキから下りてきて芝庭広場に通じる広い敷地になっているので、やっぱり空地、真っ平らにするために伐採したということは明らかではないでしょうか。

公園大改造計画といって過言ではないというふうに私は受け止めていますが、ランドデザインの議論の最初に、初の西洋公園としての歴史的、文化的価値について議論をされているのでしょうか。

○根来公園計画担当部長

第一回日比谷公園ランドデザイン検討会におきまして、日比谷公園の歴史的、文化的価値について議論いたしました。

なお、先ほどのお話がございました、これの木広場の件でございますけれども、ご説明申し上げましたとおり、日比谷公会堂耐震工事に先立つ準備工事として行ったものでございます。

○原委員

私もそう伺っておりますが、日比谷公会堂はそのままずっと使用中止になっているので、そこに対しても、どうなったかという心配の声もたくさん聞いています。急いで伐採する必要はなかったんじゃないかという、そういう声です。

歴史的建造物や樹木を守れ

日比谷公園のよさというのは何だと思えますか。ちょっと改めてお伺いします。

○根来公園計画担当部長

日比谷公園は、日本における近代的洋風公園の先駆けとして、明治三十六年に開園

した都立公園でございます。皇居など周辺と一体となった、都心の貴重な緑と憩いの場として、長きにわたって都民に親しまれてきております。

○原委員

ありがとうございます。

本当に、サラリーマンがオフィスから離れて、つかの間、体と心を休めに来られます。お弁当を食べていたりとか、本を読んだりとか、そういう方はいらっしゃいます。道路に隔てられて一線を画している、静かな公園の空間というところに価値があるともいえるんじゃないでしょうか。日比谷公園そのものが名勝指定の候補となり得るものであるという専門家の方も複数おられますが、都にそうした認識はありますか。

○根来公園計画担当部長

バリアフリー日比谷公園プロジェクトに基づき、120年の時代を経て、積層した魅

力にさらに磨きをかけ、全ての来園者及び将来の都民にとってウエルビーイングとなる公園に進化させていくことが重要であると認識をしております。

○原委員

本当に名勝指定の候補となっているというのを頭に入れておかないと、これ、大変なことに、後から大きな損失になるんじゃないかなというふうに思います。

野外音楽堂や小音楽堂、大噴水の建て直し、それからテニスコート、陳列場の場所を変えての建て直し、三笠山の一部解体、第二花壇の全面芝生化によるバラ花壇の消失、あまりにも、現存する貴重な施設をなくす計画になっているんじゃないでしょうか。

○根来公園計画担当部長

バリアフリー・日比谷公園プロジェクトでは、120年の時代を経て、積層した魅力にさらに磨きをかけ、バリアフリー化により、

誰もが利用しやすい空間の創出を目指すこととしております。

整備に当たりましては、開園当初からある施設や、大音楽堂や小音楽堂、大噴水などの公園施設を継承し、老朽化した陳列場については、パークプラザにその機能を集約いたします。

三笠山は一部改修した上で残し、第二花壇のバラは園内で活用することとなっております。

○原委員

継承というけど、建て替えなんですよ。違うものが出来上がるということを継承と本当にいうんだろうかと、私、言葉の使い方をちょっと疑問に思います。

価値ある歴史的建造物をスクラップ・アンド・ビルドする。テニスコートや陳列場が、また場所を変えても造り直すから問題ないというふうにいわれますが、本当にそうで

でしょうか。

自分の家の中で例えてみたいと思うんですね。ある日、出かけて、仕事を終えて帰ってきたら、使い慣れたソファが消えていたと。カーテンが違う色のものになっちゃったと。窓辺に置いてあったバラの鉢植えがなくなっていたと。食卓テーブルの位置が変わっていたと。これで自分の我が家として今までどおりくつろげるでしょうかというふうに思うんですね。

歴史的にも文化的にも価値ある建造物を軒並み壊してしまうというのは、日比谷公園が日比谷公園でなくなってしまうのではないかとというふうにいいたいんです。思い出深い野外音楽堂や小音楽堂、大噴水、三笠山などは残してほしいという声が多く上がっています。

陳情者のいうように、計画を一旦止めることが必要だと思うし、可能だということふうに思いますが、いかがですか。

○根来公園計画担当部長

まず、建物でございます大音楽堂や小音楽堂、これらは、これまでも建て替えをしながら施設として継承してきたものでございます。

日比谷公園につきましては、年齢、性別、国籍、障害の有無等にかかわらず、誰もが利用しやすく、楽しめる公園に進化させ、将来の都民へ引き継いでいくため、バリアフリー日比谷公園プロジェクトに基づき整備を着実に進めてまいります。

○原委員

そうですね。建て替えたりしながら来たということも存じ上げていますが、今のようないく遍大改造というのは、本当に危険という感じがします。

利用者の声を本当に聞いていかないと、野外音楽堂なんかは補修で十分だという声、あの野外音楽堂だからいいんだという方の声も結構あるので、やっぱりもう一回、一つ

一つ聞いていく必要があるというふうに思っています。

さらに、樹木の保全について、やはりもう少し聞いていきたいと思うんですが、デッキにかかるだろう大径木も見られます。今後の樹木の取扱いがとても心配です。結局、この再生整備計画によって樹木を何本伐採し、何本移植するのでしょうか。

○根来公園計画担当部長

日比谷公園の整備に当たりましては、樹木を保全し、進めていくこととしてございます。

整備については、エリアごとに段階的に進めることとしておりまして、樹木調査について、エリアごとの段階的な整備に合わせて実施してまいります。

○原委員

樹木の伐採がすごくやっぱり心配ですね。こういう公園の中の樹木って、伐採され

ても、みどり率は変わらないということとかなんかもあって、やっぱり計画全体の樹木の計画、これを出すべきではないかというふうに思います。

野外音楽堂パークPFIは見直しを

今回、大音楽堂だけパークPFI方式にしたのはなぜですか。

○根来公園計画担当部長

大音楽堂につきましては、民間事業者のノウハウや資金を活用し、効率的かつ良質なサービスを提供するため、パークPFIを活用し、再整備を行うことといたしました。

○原委員

大音楽堂を今のまま残してという声が多いんですが、屋根を設置する必要性和そのために全面建て替える必要性をちょっと、根拠を示してほしいです。また、音楽堂の周

辺まで整備が必要なんでしょうか。

○根来公園計画担当部長

現在の大音楽堂は三代目となるものでございませけれども、改築から40年が経過し、老朽化が進んでおりまして、バリアフリー対応や、控室やバックヤードなどの機能拡充を図るため、アーティストの方などからいただいたご意見も参考にしながら、大音楽堂を改築するとともに、さらに、にぎわいや憩いの空間を創出するため、大音楽堂の周辺を一体的に再整備いたします。

また、大音楽堂は、野外音楽堂ならではの開放感を維持することを前提に、天候対策としてステージ上及び観客席前方に屋根を設置いたします。

○原委員

前回の建て替えは都施行なんですよ。都施行で何でやらないのかなというのがあります。パークPFIにすれば、民間事業者

がそこで利益が上がるようにしていくわけですから、もうけが出る店舗を増やすことにつながっていくと思います。敷地確保のための樹木を減らすことも設計の中で出てくるんじゃないでしょうか。

これまでどおり都施行で、利用者の意向をよく聞いて補修などを考えていくように、もう一回計画を見直してほしいと思います。

郷土の森、三笠山、テニスコートを残せ

大音楽堂の裏にある郷土の森の樹木はどうなりますか。

○根来公園計画担当部長

お尋ねの前に改めて申し上げますけれども、パークPFI等を活用いたしますのは、民間事業者のノウハウや資源を活用して、効率的かつ良好なサービスを提供するためでございます。

お尋ねの郷土の森に関してでございますけれども、大音楽堂の整備に当たりましては、郷土の森にある寄贈された樹木は、現状のまま保全することを公募の条件としております。

○原委員

現状保全が確認できました。ありがとうございます。

三笠山は一部改修して残すとありますが、なぜ現状のまま残さないんでしょうか。

○根来公園計画担当部長

三笠山は、今後整備する周囲の広場との連続性を保ち一体的に利用できるようにす





るため、一部改修して残します。

○原委員

都心の中の貴重な緑です。本当にすばら

しい場所です。再考が必要だというふうに
思います。

我が国で初の公園内設置をしたテニスコ
ートは本当にすばらしい場所です。歴史的
価値があります。なぜ場所移動をするため
に壊してしまうんでしょうか。

○根来公園計画担当部長

公園の北西部エリアにつきましては、テ
ニスコートにより区域が分断されるなど、
回遊しにくいエリアとなっているため、テ
ニスコートの場所を移して、テニス以外も
楽しめる球技広場として整備した上で、家
族連れなど様々な世代の憩いの場となる空
間に再整備いたします。

○原委員

歴史的価値のあるものなんです。そし
て、テニスコートの利用率は休日で10
0%、平日でも90%以上、5面から場所を
移動して4面になるということです。

テニス以外にも利用するというけれども、
今の五面を四面にして、さらに、フットサル
とか開放すると。利用者にとって明らかな
サービスの低下になるのではないでしょ
うか。周囲の広場との連続性というのはち
っと意味が分らず、再考が必要だと思
います。

芝庭広場を造るのに、北西側にも芝生広
場、そんなに広場を幾つも造ってほしいと
いうのは、どこからか要望が来ているん
でしょうか。ちょっとイベント会場確保に偏
重し過ぎているのではないですか。木
陰が減ってしまうと、夏場はほとんど人が
いられない状態になるのではないでしょ
うか。

以上、答えていただけますか。

○根来公園計画担当部長

バリアフリー日比谷公園プロジェクトで
は、公園の北西部エリアについては、家族連

れなど様々な世代の憩いの場となる広場の
ある空間に再整備することとしております。
また、日比谷公園の整備に当たりまして
は、樹木を保全し、進めていくこととしてお
り、樹木の移植が必要となった場合には、樹
木診断を行った上で公園内で移植いたしま
す。

○原委員

エリアごとのいろんな計画をこれからつ
くるといふけど、もうちょっと全体として、
やっぱり本当に何が必要なのかというバラ
ンスとか、山を削って広場を造る、本当にそ
れは要求なのかということを考えてほしい
なというふうに思った次第です。

デッキ構想の謎

デッキについて伺います。
デッキをつなぐ構想は、いつ出てきたん
でしょうか。デッキを都市計画公園区域に

組み込んだのはいつでしょうか。そして整
備の費用は民間事業者が持つということで
しょうか。お願いします。

○根来公園計画担当部長

平成 30 年 12 月に策定された日比谷公
園グランドデザインでは、公園へのアクセ
シビリティを向上させ、憩い、集える空間
を創出するため、周辺のまちづくりと連携
して、地下やデッキ等で公園とまちをつな
ぐことなどが提言されております。

その後、令和元年 12 月の国家戦略特別
区域会議で、民間事業者を事業主体とする
道路上空の公園整備等が含まれる内幸町地
区における都市再生プロジェクトが追加さ
れました。公園とまちをつなぐデッキは民
間事業者が整備いたします。

なお、令和 3 年 11 月に、都市計画公園区
域の変更が決定されております。



○原委員

そうすると 2018 年、平成 30 年に、日
比谷公園グランドデザインで初めてそうい
う構想が出されたということですね。

(パネルを示す)これをちょっと見ていた
だきたいんですけども、有楽町側でデッ
キを渡す公園側の予定地から道路の東側を
見たものです。東京ミッドタウン日比谷の
ビルです。

地下鉄の出口からビルの地下1階に直結
をしているビルで、地下から7階まで、レス
トラン、カフェ、テイクアウトやお菓子の店
舗などがずらりと並び、上の階には映画館
も入っています。この2階の部分に横長の
テラスが広がって見えます。ここの部分で
すね。ちょうどデッキが公園側から渡せる
造りになっているように見えます。

このビルが完成、オープンしたのはいつ
かというと、2018年3月です。グラント
デザインは2018年の12月ですよね。
公園の再整備検討でデッキ構想が発案され
るより前に、このデッキに変更可能なテラ
スが出来上がっていたというわけなんです。
ちなみに、このビルの工事は2015年2

月に着工をしております。

公園が外とつながるようにデッキを造ろ
うと考え始めたら、普通その後どこにデ
ッキを渡そうかと場所探しをしようと思いま
す。これはちょっと順序が変だなと。皆さん
も、ぜひ現地に行って確認をしてみてもし



いんですが、ミッドタウンは三井不動産の
ビルです。事業者の方が先に発案し、先行し
て上空道路を渡せるようにビルを造ったと
しか思えないような、本当にびっくりする
ような状況です。そういうことではないん
でしょうか。ちょっとお答えをいただけま
すか。

○根来公園計画担当部長

先ほどご答弁申し上げましたとおり、デ
ッキをつなぐ構想、こちらにつきましては、
平成30年12月に策定された日比谷公園
グラントデザインの中で公園へのアクセシ
ビリティを向上させ、憩い、集える空間を
創出するために、周辺のまちづくりと連携
して、地下やデッキ等で公園とまちをつな
ぐことなどが提言された。こちらが初め
てというふうに私どもは認識してございま
す。

○原委員

疑惑は深まるばかりですね、これ。こうした民間ビルと公立の公園をデッキでつないだ前例はありますか。

○根来公園計画担当部長

ほかの例について詳細に把握はしてございませんが、日比谷公園のデッキは、公園とまちをつなぎ、誰もが快適に公園を訪れることができるようにするため設置するものでございます。

○原委員

前例はないということです。デッキと民間ビルをつなげば、このビルが特別に優遇されることになります。公共の公園が東京ミッドタウン日比谷、そして TOKYO CROSS PARK、これから建てられる予定のビルとつながり、どちらにも入っている三井不動産など特定の企業が一大利益を得ることになるのは、公共の公園の整備として

どうなんでしょうか。デッキありきではなく、必要性の検討が必要です。

先ほど述べたように、周りのビル群から遮断されていることに魅力があるという方もいると思います。日比谷公園の変わることでできない価値を都民としっかり議論すること、十分な検討が求められるのではないのでしょうか。

誰のための都立公園かが問われています。周りの商業施設のための公園にされていくという、都民からの指摘を正面から受け止め、歴史的な公園の大改造ではない整備計画に根本的に見直す必要があると思うが、いかがですか。

○根来公園計画担当部長

日比谷公園を120年の時代を経て、積層した魅力にさらに磨きをかけるとともに、年齢、性別、国籍、障害の有無等にかかわらず、誰もが利用しやすく、楽しめる公園に進

化させ、将来の都民へと引き継いでいくため、バリアフリー日比谷公園プロジェクトに基づき整備を着実に進めてまいります。

○原委員

何々のためという、そこは共感しますが、そのためにも着実に進めるんじゃないかなって思っています。

バリアフリーをいうなら、公園側に直結するエレベーターをつければ、誰でもアクセスできる公園になるのではないのでしょうか。こうしたことが検討されたのか聞いたところ、局が違うので、分からないということでした。そういうことに公園へのアクセスのバリアフリーを真剣に検討した結果の計画ではないことがいま見えると思います。

やはりデッキを渡すことは、アクセスやバリアフリーが主たる目的ではなく、歴史ある都立公園を三井不動産主導の民間開発

の前庭として利用することに一番の目的があるといわざるを得ません。

再生整備計画は、今実施計画が済み、工事を始めようとしているのは第二花壇エリアのみ、今からでも十分止められると思います。陳情者の求めるように、一旦工事をストップし、都民、利用者の声を改めて真摯に聞き、計画を根本的に見直すことを求め、陳情を採択するものと表明し、質問を終わります。

超高層再開発に歪められた日比谷公園 再整備は見直しを

2023年11月14日（火）環境・建設委員会

和魂洋才―日比谷公園創建時の

コンセプト

○原委員

最後に、日比谷公園の再生整備事業です。第二花壇の工事が進み、植栽が取り払われました。長年親しんできた景色が壊れていくことに心を痛める人は少なくありません。樹木は18本を移植するという事です。移植のために強剪定される木があり、元のように葉が生い茂るまでに何年かかるのかと思います。根づくことも時間がかかると思われます。今日は、歴史的公園としての意味や、整備計画の問題と思われる点を伺っていきます。

今年120周年を迎えた日比谷公園です

が、その日比谷公園の創建時のコンセプトを伺います。

○根来公園計画担当部長

日比谷公園は、近代的洋風公園として、ドイツの公園の設計図を参考とし、また引用しながら、従来の日本庭園の手法も加えて設計されたものであると認識しております。

○原委員

和魂洋才というふうに表現をされています。明治期、新しい文明がどんどん入ってくる時代を象徴するような西洋風の造りでありながら、日本庭園など和の心を置いた、日本人が楽しめる公園として、林学博士、本多

静六氏が設計し、明治36年、1903年に開園をしています。

開園後は、洋食、洋花、洋楽といって、洋食レストラン松本楼、また花壇、小音楽堂や



野外音楽堂など、三つの洋を楽しむ施設ができ、鶴の噴水なども含め、当時は目を見張るような新鮮さだったのではないかと思います。

今も開園当時の頃と変わらない風景があり、江戸城の遺構も活用した日比谷見附跡の石垣も残されているなど、歴史的公園の風格を備えています。都心のオアシスとしての大事な役割を果たしています。歴史ある建造物がごとく解体され、新たな建造物が建設される計画ですが、造り直す必要に迫られていない建物もあると思われる。

一つ一つの建造物について再度、 存廃を検討すべき

一つ一つの建造物について、存廃について検討されたのですか。残すという判断をしなかった理由を建造物ごとにお示しください。

○ 根来公園計画担当部長

日比谷公園の整備に当たりましては、20年の時代を経て積層した魅力にさらに磨きをかけ、歴史的、文化的な価値を継承しながら、誰もがより楽しめる公園に進化させてまいります。

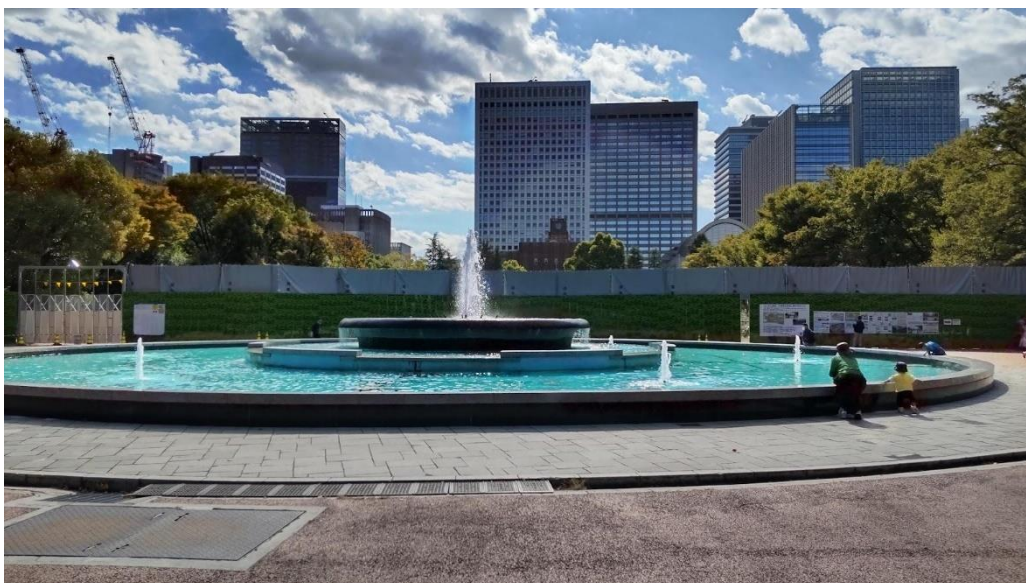
○ 原委員

魅力にさらに磨きをかけというふうにいわれましたけれども、私は大変不安です。

野外音楽堂は、1923年に開設され、今、三代目で、通算100年、改築40年です。小音楽堂は1905年に生まれ、118年の時を刻みます。野音と同じく、今、三代目で改築40年目です。大噴水と第二花壇が開設してからは62年、テニスコートは1920年、1920年に公立公園内初のテニスコートとして開設してから103年の時を経ています。

今回の公園再整備事業は、第二花壇から植栽をなくし、大噴水、小音楽堂、野外音楽

堂、テニスコートを全て解体し、新たな建造物に一気にリニューアルする計画であり、三笠山を削り、広場を造る、この大改造は本



当に必要なものでしょうか。

東京オリンピックのときなど大改造が構想されたことは、これまでに何度かあったのですが、そのたびに、この歴史的公園の形をそのまま残そうという声上がり、今、120年前の形を壊さず、継承できているそうです。

もちろん、それぞれの施設は、震災被害や老朽化に伴い建て替えをしています。築40年くらいのものが多いですが、今は世界の流れから見ても、補強工事で長もちさせることができるのではないのでしょうか。本当に解体が必要かの検討をされていないのではなかろうか。計画をもう一度検討して立てるべきです。

再開発に組み込まれた再生整備計画

日比谷公園の再生整備は、単独のものではなく、デッキを渡して、商業ビルと一帯を再開発する中に組み込まれています。公園

と商業ビルをつなぐデッキが2本、幅9メートルと18メートル、これ、道路上空公園と呼ぶそうです。ちよつと違和感があります。

デッキだから新設の道路であります、都計審で都立公園敷地というのになりました。公園からつなぐ先は、有楽町側は東京ミッドタウン日比谷で、内幸町の方は今建設中のビルです。内幸町一丁目の再開発プロジェクトでTOKYOCRO SSPARK構想、こういうのを見ると、完成予定図がいろいろ出てきます。その一つをパネルに



してみました。

(パネルを示す) この230メートルの建物、それから、これが帝国ビルですね。このような状態に日比谷公園の東南側がなっ
てしまします。公園が商業ビルの前庭として
利用されてしまう、そういう印象を私は
持ちました。

木陰のベンチで静かに過ごしたい、花を
見ながら散歩したいという公園から、かけ
離れてしまうのではないかという心配が多
く寄せられております。



そして、公園の東側に230メートルの
超高層ビル3本、帝国ホテルは145メー
トルに建て替えられるということで、公園
の樹木の日照が遮られることは容易に想像
できます。どのような認識をされています
でしょうか、伺います。

○ 根来公園計画担当部長

お話しの内容は、駅、まち、公園をつなぐ
ネットワークの形成と多様な機能が複合し
た個性ある複合市街地の形成などを図るた
め、適正な手続を経て決定された都市計画
に基づく計画でございます。

○ 原委員

認識が違ふんだと思いますが、大規模
再開発は公園に配慮しないんだと私は感
じました。

サザンオールスターズが今、「Reia
y 杜の詩」という歌を発表しましたが、
その歌詞の中に、「未来の都市が空を塞いで

良いの?」という歌詞があります。この歌を
私は思い出したんです。神宮を歌った歌だ
と思いますけれども、とても似ていると思
いました。

デッキを造って一体誰が得をするんでし
ょうか。なぜ2本も造るんでしょうか、伺い
ます。

○ 根来公園計画担当部長

公園とまちをつなぐデッキの整備等によ
り、車椅子やベビーカーでも安全、快適かつ
自由に多様な人々が訪れることができるよ
う、公園へのアクセシビリティ、公園内外
の回遊性、まちとの一体性を高め、より訪れ
やすい公園を目指します。

○ 原委員

回遊性というのは、ちょっと私はよく分
からない、納得できないところがあります。
地下鉄の駅、改札から出て、今、直接公園
に上られるエレベーターはありません。ミ

ツドタウンを通過して2階に上がって、屋根もない橋を、デッキを渡って公園側に行ったら、今度はエレベーターで1階に下りるんですよね。バリアフリーではないんです。

公園へのアクセスビリティやバリアフリーをいうならば、地下鉄駅直結エレベーターの設置を造る、こつちを優先すべきではないかと思います。デッキのいい悪いではなく、優先順位のことをいっています。

誰が得をするかということですが、誰でも分かることですが、デッキを造れば、その商業ビルが地下鉄から公園へ抜ける流れをつくり、商業的利益を上げることは確実です。それだけではなく、このデッキを造ることが、再開発ビルの容積率をアップすることにつながっております。

内幸町一丁目の敷地は、容積率が従前の900%から、再開発後は、北地区及び南地区で1340%に、中地区で1320%にまでしてよいと緩和をされてしまいました

た。ご存じだと思います。都市計画審議会で承認をされています。

容積率緩和の根拠となる特定街区及び地区計画の決定並びに都市計画公園の変更に関わる資料であります、国家戦略都市計画建築物等整備事業を定める理由書というのには、日比谷公園と連続する広場や歩行者空間の充実など、有楽町や銀座などの周辺地区とも連携した回遊性の高いエリアが形成されているという将来像が示されているというふうに述べられております。

要するに、日比谷公園と連続する広場や歩行者空間、デッキを造ること、歩行者中心の基盤が整備され、容積率をアップしてもいいですよということで、二百三十メートルもの超高層ビルが建てられるようになったということではありませんか。そのために、公園の東側、南側の日照が遮られ、公園の樹木への影響が大きく出ることには思い至らなかったのでしょうか。

景観が閉ざされることも問題ですし、何より公共空間である都立公園が、特定企業の持つビルの前庭として扱われる、こういうふうになっていくのではないのでしょうか。三井不動産など大企業が自分の描きの中に公園を含め、そのとおりに公園が改造されていく流れではないですか。

企業にいいように使われ、稼ぐ公園になっていくのではないのでしょうか。公共性の観点から、計画を問い直すべきです。

東京ミッドタウンに既に用意されているデッキに変更可能なテラスの件、前回、委員会で問題提起しましたが、調査をされましたでしょうか。

都と三井不動産はいつから話し合っていたかー日比谷エリアまちづくり検討会

デッキの構想が初めて出てきたのは2018年とされていますが、それ以前に、東京



ミッドタウン日比谷の施工者である三井不動産などと東京都が、デッキ構想について話し合いをしたことはありますか。あれば、いつ、どこで、どんな話をしたのか、記録をお示しく下さい。

○ 根来公園計画担当部長

平成 30 年 12 月に策定された日比谷公園グランドデザインでは、公園へのアクセシビリティを向上させ、憩い集える空間を創出するため、周辺のまちづくりと連携して、地下やデッキ等で公園とまちをつなぐことなどが提言されています。

お尋ねのような話し合いをした記録はございません。

○ 原委員

2011 年 6 月に日比谷エリアまちづくり検討会により、日比谷まちづくり基本構想が出されています。(資料を示す) 資料はこういうもので、検討会の構成員は、最後のページに載っていましたので、ちょっと読んでみたいと思います。

座長である慶應義塾大学名誉教授の日康雄氏、岸井隆幸氏、千代田区の都計審の会長です。それから、東京都都市整備局都市づくり政策部長、東京都建設局道路管理部長、

同じく建設局公園緑地部長、千代田区まちづくり推進部長、そして地権者、今治造船株式会社、NTT都市開発株式会社、第一生命保険株式会社、株式会社帝国ホテル、東京センチュリーリース株式会社、東京電力株式会社、東宝株式会社、東宝不動産株式会社、日本生命保険相互会社、日本土地建物株式会社、日比谷商店

会、三井不動産株式会社、有楽町町会と書かれています。

有楽町一丁目と内幸町一丁目で構成される日比谷エリアは、2009 年に東京都が策定した東京の都市づくりビジョンにおいて、国際的なビジネスセンターの形成などを目指すセンター・コア再生ゾーンの拠点の一つとして位置づけがされています。そして、この基本構想には、国際競争力の強化など、都市再生に貢献しつつ、世界に誇れる日比谷エリアの再生と都市ブランドの創造を目指すため、日比谷エリアのまちづくり



<各ゾーンのまちづくり方針>

<有楽町1丁目ゾーンのまちづくり方針>

業務機能の更新を図るとともに、劇場・映画館等の文化・交流施設の核となる広場空間の整備や、日比谷公園との連続性創出のため、必要に応じて官民協力により道路線形の改善や道路機能の見直しをはかり、日比谷エリアのゲート空間としてふさわしい、賑わいのあるまちづくりを推進する。

<内幸町1丁目ゾーンのまちづくり方針>

日本を代表する迎賓交流拠点の再構築・街区規模を活かした快適業務空間の創出を図りながら、周辺地区・日比谷公園とつながる緑あふれる開かれた街区を形成することにより、世界に誇れる都心拠点にふさわしい、風格あるまちづくりを推進する。

の将来像を示すために取りまとめられたと書かれています。

ホームページで取れる資料です。千代田区議会にも出ていまして、まちづくりの振り返りという文章の中で、この基本構想検

討会と基本構想が紹介をされております。

その中で、日比谷エリアの特性について、文化、芸術の場、大企業本社の集積などとともに、都心の希有な大規模緑地、日比谷公園に正対していることを特徴として挙げてい

ます。

周辺エリアとのネットワークという文言が何度も出てきて強調され、日比谷公園から緑を引き込むとともに、公園とのつながりを強化することで、公園とまちの回遊性を促進するとの文章が出てきます。

(パネルを示す) 日比谷まちづくり基本構想に出てくる図で、こういうものがありました。これが日比谷公園ですね。こっちは有楽町エリアで、こっちは内幸町のエリアです。日比谷まちづくり基本構想に出てくるこの図では、黄色い曲線が回遊性、ネットワークのラインでしょうか、日比谷公園の中にまで回遊性の図が、ラインが引かれております。

下の段には、こう書かれております。日比谷公園との連続性創出のため、必要に応じて官民協力により、道路線形の改善や道路機能の見直しを図り、日比谷エリアのゲート空間としてふさわしい、にぎわいのある

まちづくりを推進するというふうここに
書かれております。

2013年12月、日比谷地区は都市再
生特別地区となり、現東京ミッドタウン日
比谷の決定がされます。2015年から工
事が始まり、2018年にオープンされま
した。ご存じのとおり、デッキに変更可能
なテラスが設置をされています。

これでデッキ構想が2018年がスター
トだったと本当にいえますでしょうか。日
比谷エリアまちづくり検討会で、建設局の
職員も地権者の企業と会って話している
ではありませんか。再開発企業からの要請を
受けて、2018年のグランドデザインの
中で、デッキ構想を後づけしたのは明らか
です。

基本構想をまとめたときの都幹部は

2011年の日比谷エリアまちづくり検
討会に出席をした都の都市整備局と建設局

の職員の名前と当時の両局長さんのお名前
を教えてください。

○根来公園計画担当部長

委員おっしゃられた日比谷エリアまちづ
くり基本構想を取りまとめた時期、取りま
とめたときの都市整備局長は河島均氏、建
設局長は村尾公一氏でございます。

○原委員

今、局長さんのお名前ですね。出席した部
長さんの名前もお願いします。

○根来公園計画担当部長

失礼しました。23年、この取りまとめた
時期の部長ということでございますが、都
市整備局の都市づくり政策部長は安井順一
氏、それから建設局の道路管理部長は東了
一氏、それから公園緑地部長は上杉俊和氏
でございます。

○原委員

ありがとうございます。まちづくり検討
会と基本構想のことは報告がなく、201
8年がスタートだったと先ほど報告されて
おりますが、まちづくり検討会のこと、基本
構想の内容はご存じだったかどうかを確認
しておきます。

○根来公園計画担当部長

私自身が承知をしていたかというお尋ね
でよろしいでしょうか。（発言する者あり）
日比谷エリアまちづくり検討会、構想がつ
くられていたということは、私も承知をし
てございます。

○原委員

それが、2018年のグランドデザイン
に至る前段の会議だったという認識はなか
ったということでしょうか。

○ 根来公園計画担当部長

日比谷エリアまちづくり基本構想は、内幸町街区と申しますか、こちらの街区の開発等の構想をまとめたものでございまして、日比谷公園ランドデザインは、日比谷公園の将来像を描くということでまとめたものでございます。

○ 原委員

ちよつと無理があると思いますが、また機会をつくつていこうと思います。

ちゃんと報告をしていたきたいんです。うちの局は2018年以降しか知りませんという態度では困ります。千代田区議会で報告されているんですから、ここで報告しないというのは本当に失礼な態度だということに指摘をしておきます。

公共の都立公園の整備計画について、特定の意向が押しつけられるような不公正があれば大問題です。経過をうやむやにせず、徹底説明を求めます。

公園再整備の計画で、回遊性のある道路の線など、公園の中身にまで日比谷エリアの企業の要請が入っているのではないのでしょうか。先ほどの地図もご覧いただいたと思いますが、公共性と矛盾しませんか、伺います。

○ 根来公園計画担当部長

都立日比谷公園再生整備計画は、令和元年10月の東京都公園審議会への諮問、学識経験者等による審議を経て、都民等からの意見も踏まえて取りまとめられた答申に基づき策定しております。今後は、この事業計画として取りまとめられたバリアフリー日比谷公園プロジェクトに基づき整備を進めてまいります。

○ 原委員

パネルをご覧ください。これも先ほど示したTOKYO CROSS PARKの構想の中で出てくる図です。このように公園





の中にまで突っ込んで計画が公表されております。なぜ、初代のテニスコートが移動させられたり、三笠山を一部解体するんでしょうか。そのために樹木が抜かれ、芝生広場になることに何の意味があるんでしょうか。様々な資料を見せていただきましたけれど

も、大変、企業の意向に基づいて計画がゆがめられているというふうに私は感じております。

バリアフリー日比谷公園プロジェクトの将来図を見ても、企業の意向が反映しているとは思えません。違うというなら、そういう私の受け止めに払拭するような説明をいただきたいと思っています。

そして、日比谷公園は、ヘリコプターが離発着する防災公園にも指定をされています。バリアフリーをいうなら、地下鉄駅直結のエレベーターの設置をすべきです。先ほどもいいました。

再整備をいうなら、関東大震災の避難所に使われたり、リーマンショックの派遣村として利用された場所ですから、非常事態に避難者が過ごせるような防災用品の整備とか、数千人の受入れができる施設を整える計画とか、そういうものも必要ではないでしょうか。

そして、公園全体が、歴史的価値があり、文化遺産としての価値を残していく。専門家を入れた会議体をつくり、保存すべきものについての検討をする必要があると思います。

創建の時代から変わらないもの、守るべきものを守り、公共空間として、都心にあるオアシスとしての役割を果たす公園として、継続することを切に求めています。

今回、三つの公園を取上げましたが、それぞれの課題があるとともに、共通の問題として、整備計画を立てる段階で樹木の扱いが後回しというか、場合によっては邪魔なもののように扱われることに危機感を感じます。

樹木は公園の主役です。そして、公園はみんなのものです。そのことを肝に銘じて、整備計画を捉え直していただきたいと強く願います。私の質問を終わります。

ご意見・ご要望をお寄せください

発行：日本共産党東京都議会議員団

2023 年 12 月

〒163-8001

東京都新宿区西新宿 2－8－1

電 話 03-5320-7270

F A X 03-5388-1790

<https://www.jcptogidan.gr.jp>

* この冊子是一部、未確定稿を元に作成しています。正式な
議事録は都議会ホームページでご確認ください。

